

ロシア解説

経済の成長過程において、かつての計画経済から市場経済への体制移行を進

めると、中国経済は、その後も08年に世界金融危機が発生するまで、成長率が10%を上回る高成長を維持した。

「BRICs」誕生10年、ロシアと中国の歩み
いわゆるBRICsの呼び名を世に知らしめた03年の「ゴルドマンサックス」のレポートでは、中国、ブラジル、ロシア、インドの4ヶ国が長期にわたり高成長を続ける輝かしい未来像が描かれていた。それから実際に10年が経過する過程で、これらの国々のGDPの成長や国民所得の上昇という一國全体の経済動向は、総じて期待通り、もしくはそれ以上の成果を示してきた。もともと、他方ではいずれの国も、特定の分野に偏った経済発展や所得の不平等、金融業と金融市場の未発達など、経済・金融の中身については様々な問題が散見された。また、一部には、時に国内外いずれに対しても危うさを窺わせる強権的な内政・外交が垣間見えた。高成長と不安定性の併存、いわば様々な問題を抱えながらの経済発展は、BRICs諸国に共通する特徴である。

1978年に改革・開放政策に転換して以来、経済特区の設置による外国資本と技術の積極的な受け入れや、市場経済の導入を梃子に高成長を続けた。01年のWTO加盟後は、中国市場開放に対する海外からの期待の高まりを背景に、直接投資の拡大が加速、経済成長率は10%を上回るペースとなり、BRICs予測レポートが発表された03年の時点ですでに世界第7位の経済大国となった。中国経済は、その後も08年に世界金融危機が発生するまで、成長率が10%を上回る高成長を維持した。

1978年に改革・開放政策に転換して以来、経済特区の設置による外国資本と技術の積極的な受け入れや、市場経済の導入を梃子に高成長を続けた。01年のWTO加盟後は、中国市場開放に対する海外からの期待の高まりを背景に、直接投資の拡大が加速、経済成長率は10%を上回るペースとなり、BRICs予測レポートが発表された03年の時点ですでに世界第7位の経済大国となった。中国経済は、その後も08年に世界金融危機が発生するまで、成長率が10%を上回る高成長を維持した。

また、中国の高成長の過程において、外国資本及び技術の導入と共に経済を支えたのが、農村部からの出稼ぎ労働者らの豊富で安価な労働力であった。これら資本と労働力は「世界の工場」と呼ばれた中国の優位性を大いに高め、労働集約型の繊維産業や家電産業、及び輸出は飛躍的に増加した。また、13億人の人口は、潜在的な巨大市場の源泉として常に外国企業の注目を集めてきた。この点でも、中国よりも経済が成熟していたロシアの状況は異なっていた。03年時点で人口は1億4000万人と中国の10分の1程度に留まる一方、一人当たり所得は約3000ドルと中国の2倍強に達しており、労働集約型の製造業を支える低賃金労働力は十分に存在しなかった。

（文責：国際通貨研究所調査部副部長 中村明）

（文責：国際通貨研究所調査部副部長 中村明）

（文責：国際通貨研究所調査部副部長 中村明）

「しばむBRICsの夢」真偽の検証(ロシアを中心に)

第3回